

小山市立車屋美術館 館報

令和4年度版(2022年4月～2023年3月)



令和5年8月



Kurumaya
Museum
of Art

小山市立車屋美術館

目 次

はじめに

車屋美術館の概要と沿革

I 運営および統計	
1. 組 織	2
2. 運営委員会	2
3. 統計資料	3
4. アンケート集計結果	5
5. コロナ対策について	13
II 小川家住宅公開事業	14
III 展覧会事業	
1. 第53回企画展「アートリンクとちぎ2022 栃木県立美術館収蔵品展 野澤一郎が愛した美術」	15
2. 第54回企画展「鈴木まもる 絵本と世界の鳥の巣展」	18
3. 第55回企画展「 ^{アーティキュレーション} Articulation－区切りと生成」	22
4. 第8回「10×15 の世界コンテスト展」	27
IV 教育普及事業	
1. スタディプログラム、ワークショップ	30
2. ギャラリートーク、講演	30
3. 教育機関等との連携事業	31
4. 車屋美術館ボランティア支援事業	33
V 展示室貸出事業(市民ギャラリー)	34
参 考	34

はじめに

新型コロナが発生して3年目となった令和4年度も依然制約の中での1年間となりましたが、車屋美術館では、「こんな時こそ市民に潤いを」の合言葉のもと、コロナ対策に万全を期しながら計画された事業はなんとか全て実施することができました。運営委員会も2年ぶりに対面での会議が持てて多くの有意義なご提言やご示唆を頂くことができました。

企画展は、特色ある三つの企画でしたが、それぞれの企画意図がほぼ達成され充実した内容と成果を収めることができましたと思います。

まず「野澤一郎が愛した美術」（県立美術館所蔵展）は小山市にも主力工場のある大企業の創設者野澤一郎氏のコレクションを紹介したのですが、地元にも所縁がある人物とその収集品を市民にあらためて紹介することができ、今後も隠れた人物や所蔵作品の発見や紹介ができればと思っております。

次に、「鈴木まもる絵本と世界の鳥の巣展」ですが、子どもたちにも良く知られている絵本の原画と世界中から集めてきた鳥の巣の現物を展示するというユニークな企画であった上に、会期中何度も会場に足を運んで下さった鈴木先生自身の持つサービス精神と行動力もあって、ワークショップの鳥の巣作りや講演会も大盛況でした。夏休みと重なったこともあって、親子連れなど4,000人を超えるご来館を頂き市民美術館としての役割が大いに果たせました。

「Articulation—区切りと生成」という企画は、小山市出身の彫刻家である生井亮司さんを中心とした14名の若いアーティストが、作品展示やワークショップ、シンポジウム等を展開してくれるという新しい取り組みの企画でした。現代アートの分野では、小山市出身で活躍している若い作家が意外と多いので、今後はこうした人たちの紹介も兼ねて現代アートの分野も当美術館の売りにしていくことも考えています。また、この企画では、ワークショップやシンポジウムに白鷗大学の学生さんや美術の先生方が大勢参加してくれ、作家の口から思いを聴いたり、直接言葉を交わすことができました。

鈴木まもる展とも共通することですが、アーティストとの直接のふれあいができる機会は滅多にできることではなく、美術館の仕事としても日頃からの作家との人間関係作りは大切であり、学芸員をはじめスタッフの今までの努力の積み重ねが成果となって表れてきているものと嬉しく感じました。

これをきっかけに市内唯一の大学である白鷗大学との連携や、教育機関等との連携を一層広げ、教育普及部門にも力を入れていきたいと思っております。

出前授業や出前講座も一層の広がりを見せておりますし、今年度は初めて地元中学校の職場体験学習生を受け入れ、学校との連携を進めることができたのも一歩前進かなと思っております。

その他では、「10×15の世界コンテスト」は好評のうちに第8回を迎え、全国各地から多くの応募を頂き今やすっかり当美術館の目玉事業に定着した感があり、市民参加型の事業として重要な位置づけとなっております。

小山市は、宇都宮に次いで栃木県2番目の都市に発展してきた現在、今最大の課題は市民の文化度をいかに高めるかであると私はずっと思っております。

折しも、3月には「小山市美術家協会」が立ち上がり、その設立展覧会が車屋美術館で開催され、連日多くのお客さんを集めました。

これらを機会に美術館が一層市民に身近なものとなり、あらためて美術館が市の文化発信基地としての役割を果たせるようボランティアはじめ地域の皆さまとも力を合わせ、なお一層努力を重ねたいと思います。

皆さまのお陰で今年度も充実した1年であったことを感謝申し上げ、はじめのごあいさつといたします。

令和5年8月

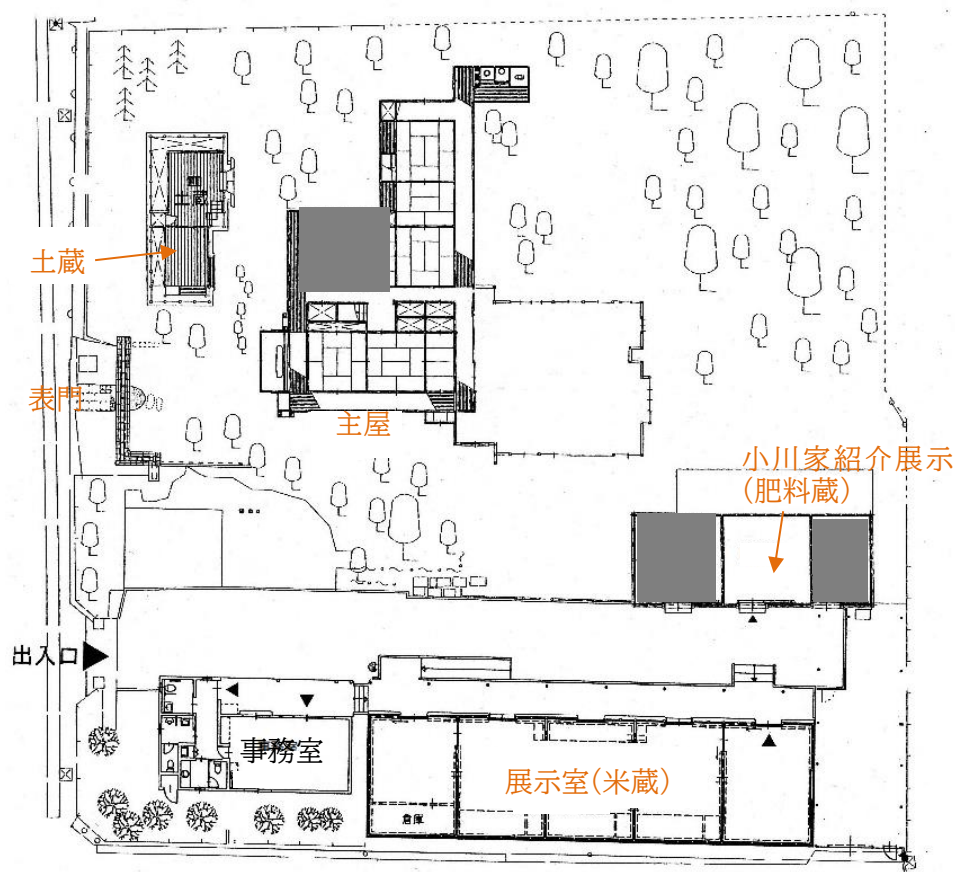
小山市立車屋美術館

館長 中野 晴永



車屋美術館の概要と沿革

【当館の平面図】



【当館の沿革】

平成19年(2007)、商家のたたずまいを残す貴重な文化財として小山市乙女に所在する小川家の「主屋」・「米蔵」・「肥料蔵」・「土蔵」・「表門」の5件が国の登録有形文化財になりました。小山市ではこれを機に、“建物を活かし、文化を生かす”という文化財登録制度の理念のもと、地域の歴史・文化・自然と関わって発展してきた同住宅を借り受け、平成20年度には国土交通省の補助金を得て整備工事を実施しました。そして、翌平成21年(2009)4月4日、市内で初めての公立美術館である小山市立車屋美術館が開館しました。なお、美術館の名称に使用した「車屋」は小川家の屋号に由来するものです。

小川家について 小山市の中央を南流する思川は、現在、4県4市2町にまたがる渡良瀬遊水地(2012.8月ラムサール条約登録湿地)で渡良瀬川に流入し、利根川水系に注ぎ込みます。思川は古くから、江戸と下野を結ぶ水上交通路として重要な役割を果たし、沿岸には物資輸送の拠点となる多くの河岸が置かれました。小川家は、こうした河岸の一つである「乙女河岸」で肥料問屋を営み栄えた豪商です。乙女河岸は大量物資輸送が可能な高瀬舟が寄港する最上流の河岸として流域でも有数の賑わいを見せた河岸でしたが、時代が明治に入ると、鉄道の敷設などにより物資輸送の中心が水路から陸路へと移ったため、小川家も明治末には間々田駅にもほど近い日光街道沿いの現在地へと移転しました。

I 運営および統計

1. 組織

令和4年度職員名簿

職名	氏名	備考
館長	中野 晴永	非常勤特別職
副館長	佐久間 弘行	兼務（文化振興課課長）
業務係長	山内 節子	副主任
学芸員	五十嵐 直子	主任／近代日本画
	中尾 英恵	主査／現代美術
	古谷 美也子	任期付職員／近世絵画
庶務	林 佑亮	主事
会計年度任用職員	4名	

2. 運営委員会

小山市立車屋美術館設置条例第16条(運営委員会)及び同管理運営規則第13条(小山市立車屋美術館運営委員会)に基づき、当館の管理運営に関する諮問に応じ必要な協議を行うために設置するものです。

令和4年度運営委員会委員名簿

(敬省略)

	氏名	所属他	備考
1	島田 紀夫	美術評論家・実践女子大学名誉教授	委員長
2	杉浦 幸子	武蔵野美術大学教授	
3	益田 勇一	白鷗大学教授	
4	小勝 禮子	近現代美術史・美術批評家、京都芸術大学非常勤講師	副委員長
5	荒井 友子	小山市教育委員会委員	
6	増渕 輝子	小山市立大谷中学校教諭	

【第1回運営委員会】

日時：令和4年8月2日(火) 午後1時30分より

場所：小山市立博物館 視聴覚室

議題：(1)委員長、副委員長の選出
(2)令和3年度事業報告について
(3)令和4年度事業実施状況について
(4)令和5年度企画展(案)について
(5)その他

【第2回運営委員会】

日 時： 令和5年3月16日(木) 午後1時30分より

場 所： 小山市立博物館 視聴覚室

議 題： (1)令和4年度事業実施状況について

(2)令和5年度事業(案)について

(3)令和6年度企画展(案)について

(4)その他

3. 統計資料

令和4(2022)年度入館者数

【開館日数】 292日

【入館者数】 年度合計 10,122人

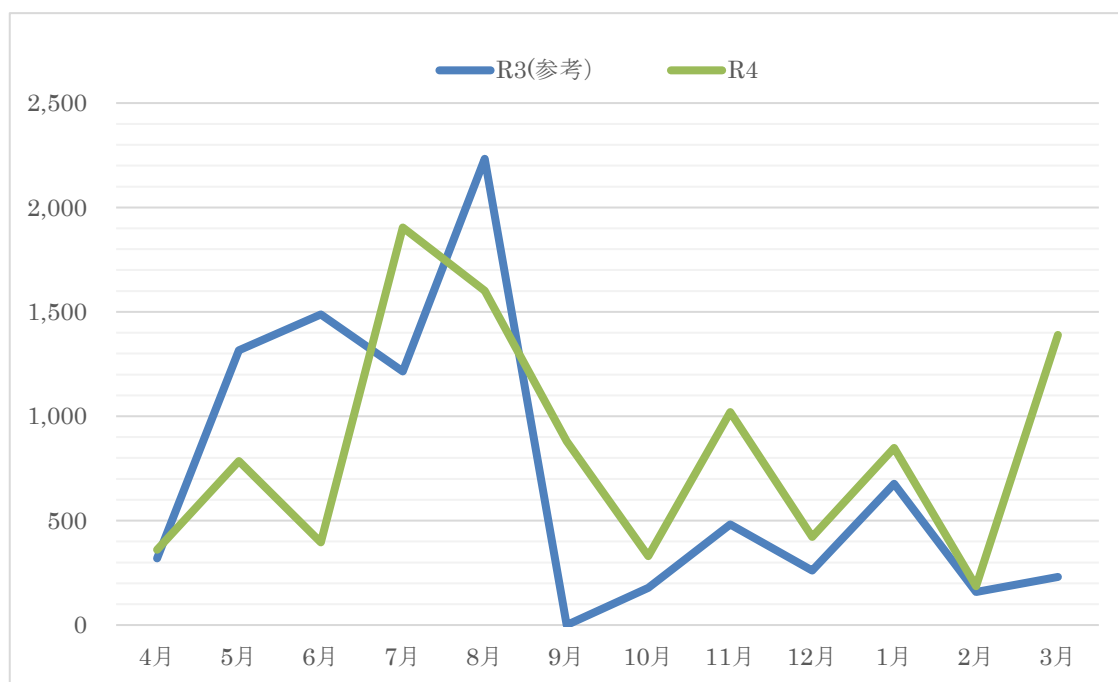
令和4年度月別入館者数

月 (開館 日数)	4月 (25)	5月 (24)	6月 (25)	7月 (26)	8月 (24)	9月 (26)	10月 (25)	11月 (23)	12月 (23)	1月 (23)	2月 (23)	3月 (25)
入館者数	360	785	396	1,904	1,601	880	330	1,020	422	848	186	1,390

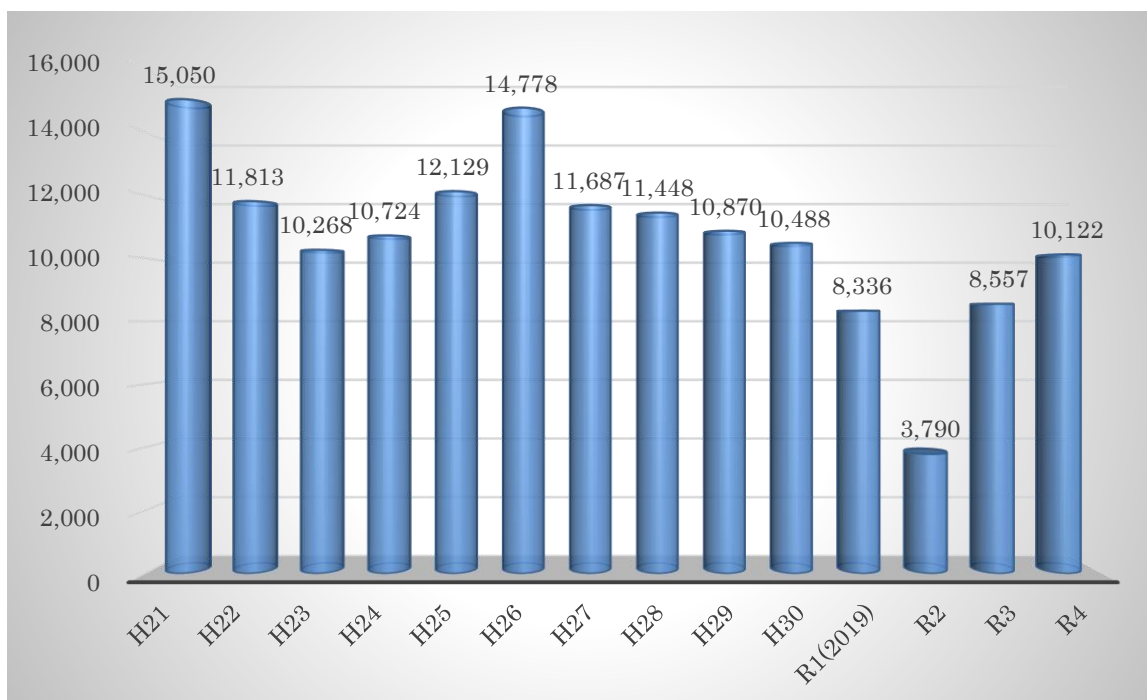
令和4年度入館者内訳

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
有料 観覧者	企画 展	110	225	81	702	692	387	49	124	77	0	0	0	2,447
	小川 家住宅	113	129	101	385	304	171	91	127	82	163	63	119	1,848
無料 入館者		137	431	214	817	605	322	190	769	263	685	123	1271	5,827
総入館 者数		360	785	396	1,904	1,601	880	330	1,020	422	848	186	1,390	10,122

令和4年度年間月別入館者数



年度別総入館者数推移

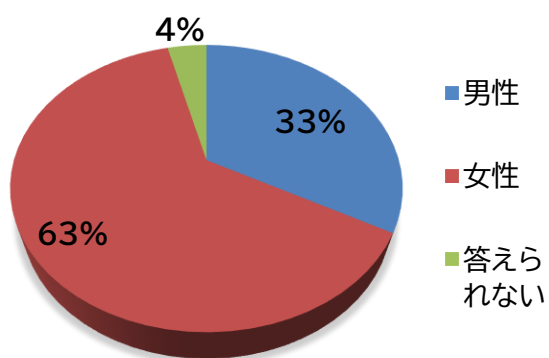


4. アンケート集計結果

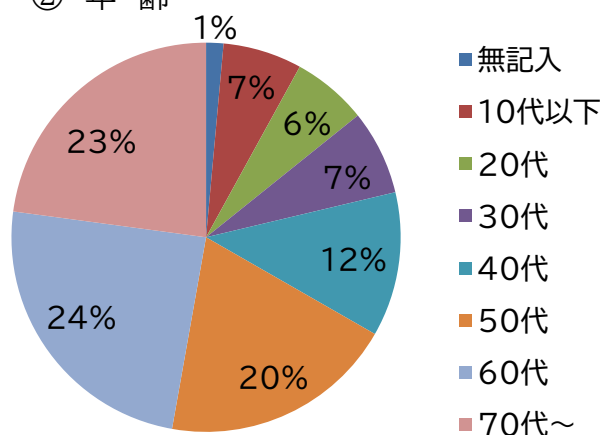
令和4年度に開催された企画展示ほかでアンケートにご協力いただいた方は、合計632名(内訳は男性210名、女性397名、無記名25名)でした。貴重なご意見をありがとうございました。これらのアンケート結果は、今後の美術館運営の参考とさせていただきます。

なお、アンケートには複数回答や回答なしの項目があるため、以下のグラフ内の数値は回答数の中の割合を示したものです。

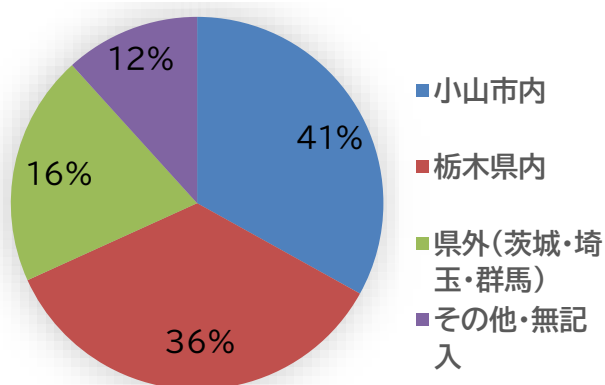
① 性別



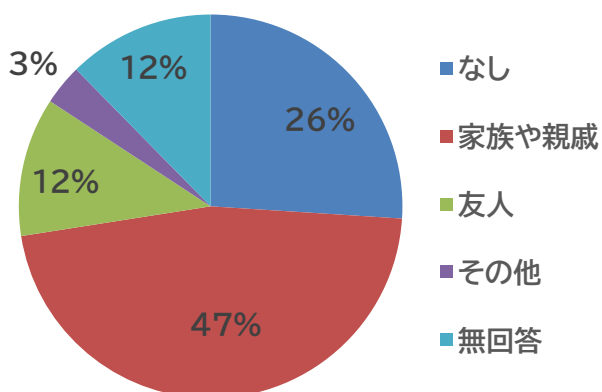
② 年齢



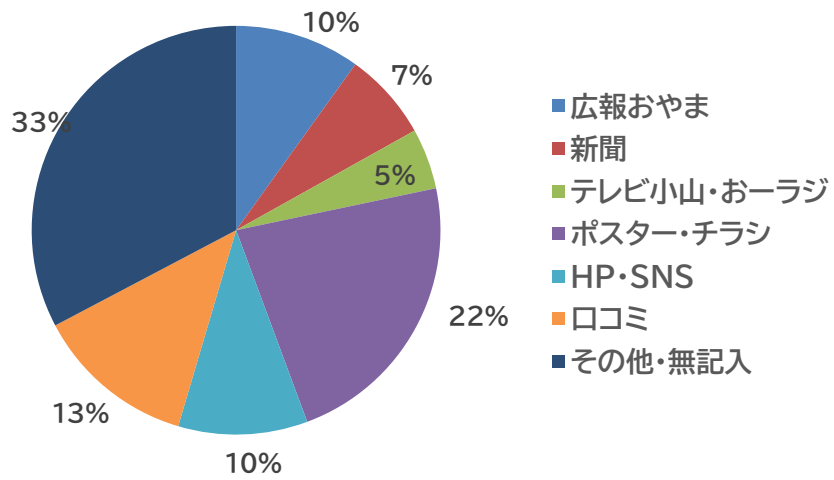
③ 住所



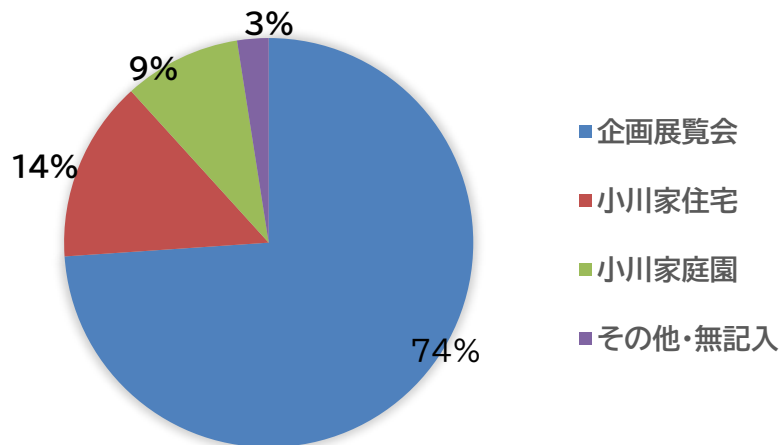
④ 同行者はどなたですか



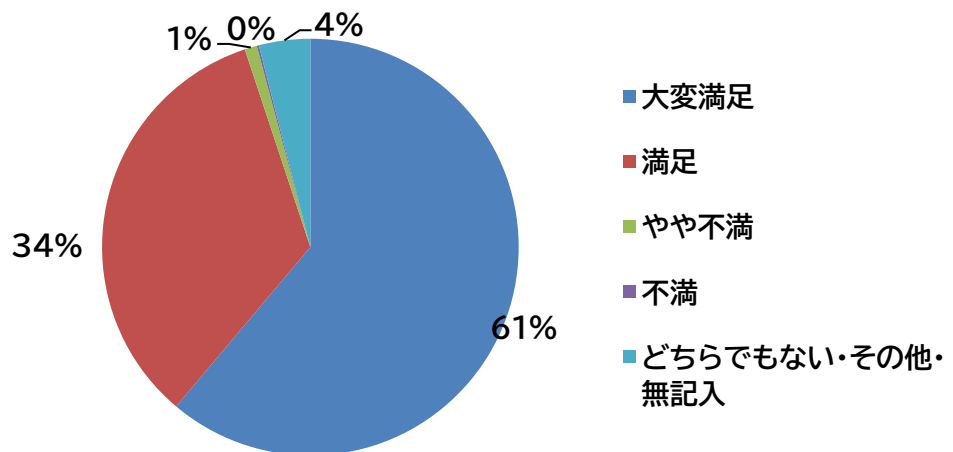
⑤ 美術館を何で知りましたか



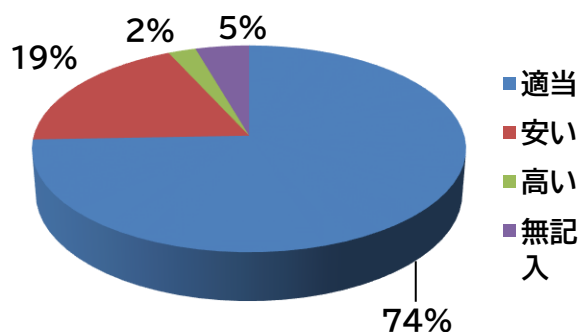
⑥ 何に興味をもちましたか



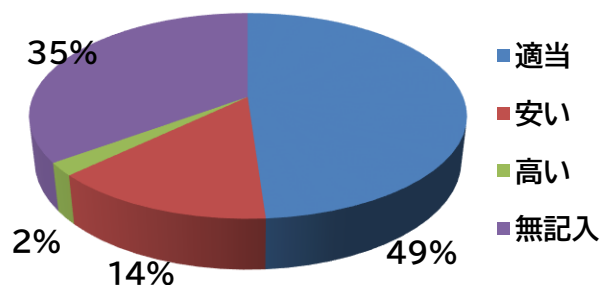
⑦ 今回の企画展覧会について



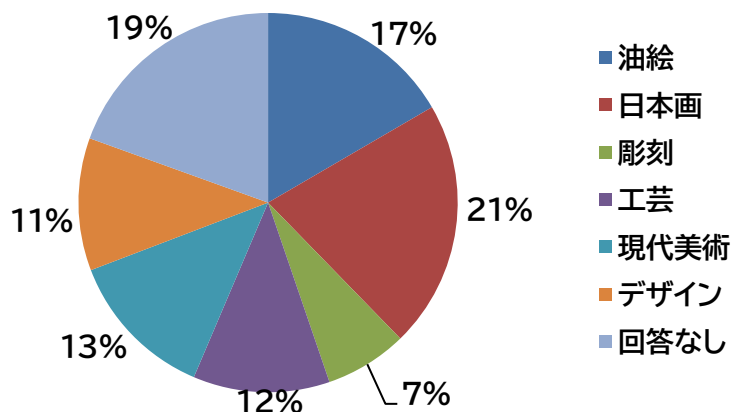
⑧ 観覧料について(企画展)



⑨ 観覧料について(小川家住宅)



⑩ 今後の企画展覧会の希望



⑪ その他、お気づきになられたことを自由にお書きください。(一部抜粋)

※青字は小川家住宅に関わるご意見

≪第53回展「野澤一郎が愛した美術」≫期間中アンケート

- ・ よく見る絵が、一人のコレクターの収集品として一堂に展示されて、コレクターの趣味、価値観がよくわかるいい企画展と思います。
- ・ 子どもたちも一緒に見られるような企画展も楽しみにしています。貴重な作品を見られて感動しました。
- ・ 今回はゆっくりと見学ができて、自分の好きなテーマだったので、絶対に来たいと思いました。貴重な作品を、まちの美術館でみることができ、うれしく思いました。
- ・ もっと車屋美術館をアピールした方がいいと思う。多くの人々に、芸術を堪能してもらいたいと思う。
- ・ 松本姿水の絵が素敵でした。いにしへの歌人の肖像を描いた「三十六歌仙絵」はよくぞ保存し

ておいてくれた…。スバラシイ。もう少し読めたら良かったけど。

- ・ アート作品に、こんなに近くで触れられる企画をいつもありがとうございます。
- ・ 「花籠」が素晴らしかった。間近で見られ、その技法や細部に至るまでの筆使いをよく見ることができた。
- ・ 作品鑑賞会に参加させていただき、ありがとうございました。大変丁寧で分かりやすい解説でした。大変勉強になりました。
- ・ 解説がていねいでイラストもついて、とてもよかった。
- ・ 野澤一郎という人の立派な人間性に感動した。巴の百年史があつてよくわかりました。
- ・ 質・量ともに見やすく面白いと思いました。いい絵を見せてもらいました。
- ・ 地域の偉人について、新しい発見があるかもしれない。こういった企画はぜひまた期待いたします。
- ・ ギャラリートークに参加させて頂き、一人で鑑賞するよりずっと、深く理解したと思います。さらに、興味のある作者については、ホームワークで学んでみます。
- ・ 小山近隣の画家、ゆかりの方の作品を楽しみにしております。
- ・ とても良かったです。子どもに本物にふれる機会を与えてあげたいのでまた来たいと思います。
- ・ 日常を忘れ心豊かになる時間をいただきありがとうございます。次回の企画展も楽しみにしています。
- ・ 企画展毎の図録があつてくれると良いと思った。図録を購入する上でホームページ等に図録の情報を一覧に纏め掲載してくれたらと思いました。
- ・ 若い時お世話になった会社の会長さんへの思いを馳せながら拝見させていただきました。立派な絵に感動すると共に野澤一郎さんへの誇りを感じとてもいい機会をいただきました。
- ・ 日本の宝とも言うべき名画を生で見られて幸せでした。いつまでも作品の前に居たい感激をおぼえました。
- ・ 野澤一郎氏の基金による奨学金に学生時代大変助けられた思い出があり、ぜひ野澤氏にかかわる展示ならば見たいと思い来館しました。お人柄を感じることでできる展示で良かったです。
- ・ 身近な場所にこのような美術館があることを初めて知りました。野澤一郎氏の偉大さも知ることが出来、ありがとうございます。これからも広報等に目を通し再館したいと思います。
- ・ 久しぶりにすばらしい雰囲気を受けました。何事も忘れ自分の時間をいただきました。又、折をみて伺わせていただきます。車屋美術館様のことは以前からあこがれていました。

《第 54 回展「鈴木まもる」展期間中アンケート》

- ・ (小川家の)主屋が想像以上によかった。案内していただいた方がわかりやすく説明して下さり、細部まで見られました。普通の日本家屋では見れないつくりも見れ、とても面白かったです。
- ・ 鈴木まもるさんの展示、田中一村の展示を楽しみにしています。ありがとうございました！
- ・ 鳥の巣の世界、そこから広がる鈴木さんの世界に深く感動しました。もっと多くの人があるの興味を追及して、広がり、より多くの人にも伝わっていく世の中になるといいなと感じました。良い

企画をありがとうございます！

- ・ 鈴木まもるさんの絵本は何冊か家にありますが、鳥の巣に関する本はありません。今回観覧して、実物の巣が見られたことは感動しました。そのうえ、鈴木さんの鳥や地球にどんな心を寄せていたかがよくわかりました。
- ・ 絵本原画展、お願いいたします。
- ・ 奥の部屋、絵本が片隅に置かれていました。ぜひ、テーブルの上に平置きして、皆さんに手に取ってもらえるようにしていただきたいと思いました。また、鈴木まもるさんの絵のポストカードの販売があったら買い求めたくなりました。
- ・ コウノトリ関連でもありまじょうが、大変な規模の企画展であると思います。御本人の講演やワークショップもあり楽しみです。期間も長く、何回かは訪れようと思ってます。夏休み、子どもたちによい思い出ができるのではないのでしょうか。
- ・ 鈴木まもるさんの絵本大好きです。原画にふれて大満足です。鳥の巣の絵本もていねいに見ていきます。小川家もみられてよかったです。
- ・ 乙女にこんな立派なものがあつたとは知りませんでした。
- ・ いつも面白い企画展を開いていただきありがとうございます。今回のものもとても興味深かったです。鳥の巣を自分でも見つけたくなりました。鈴木先生の絵本をもっと読みたくなりました。
- ・ ゆっくり見せていただきありがとうございました。鳥の巣にも絵本原画にも驚くばかりです。素敵すぎです。小川家住宅についても入り口で説明いただき、新たなことをわかりうれしかったです。
- ・ 立派なつくり、その当時のすごさが伝わりました。ありがとうございました。
- ・ 静かで落ち着いた雰囲気がいいですね。鈴木まもるさんの絵本は子ども(今は成人)によく読んでやっていたので、懐かしかったです。お世話になりました。
- ・ 鳥の巣展にびっくりしました。作者の好奇心のたまもの→それが結果的に私たちにを見せてもらえる鳥の生命に感動しました。ありがたいことです。こういう企画今後も続けてください。
- ・ 作家さんの一途な姿を見られる企画展で大変感銘しました。ぜひ、また生涯の過程が見られるような(その方がぞっこんほれこんだ研究物)ものを企画してほしいです。ありがとうございました。
- ・ 日ごろ何気なく過ごしていると、改めて驚きや発見は新鮮です。気軽に立ち寄り、いろいろと刺激をいただけ有難いです。お話を添えていただき、興味が広がります。有難うございました。購入してみたい本がありました。じっくり読むのが楽しみです。
- ・ 小川家保持、大変だと思いますが、是非残していただき、歴史を伝えて下さい。
- ・ 子どものころに見た覚えのある絵だなあと HP を見て思い、初めて来館しました。懐かしさ、鳥の巣についての新たな知識、非常に楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ 上京しての美術鑑賞が難しい状況になり、大きな展覧会に足を運ぶことはなくなって残念だが、車屋美術館さんの企画はいつも面白く、学芸員さんの努力を感じている。今回の企画も。鳥の巣が鑑賞対象になることを納得できないままに来てみたが、自然の不思議を目の当たりにし感心した。作者についても認知していなかったが、今後、著書に注目していきたいと考えた。これら

も、興味深い企画を期待している。

・ 鈴木まもるさんの鳥の巣を見てみたく来ました。今住んでいるところが伊豆の河津町にいてすずきまもるさんを知りました。実家に帰ってきたタイミングでこれを見つけてきました。これでよかったです。

・ 小川家住宅での案内がとても丁寧で素敵勉強になりました。とても楽しかったです。

・ チケットが安いので入りやすかったです。

・ とりのすの中までくわしくして、うれしかったです。くわしく、なかまでわかりやすくしていたので、素敵ペンギょうになり、まんぞくしました。また、ここにきてペンギょうをしたくなりました。たのしかったです。

・ 鈴木さんもですが、そこに注目して企画展を行う美術館も楽しいなあと思います。ムクドリにも生活があるのだなあ、といろんな鳥の巣を見て感じました。

・ 鳥の巣の実物と絵が両方展示されていて、興味を掻き立てられる構成になっていて楽しめました。身近な日本の野鳥や生き物の巣だけの展示もあると更に楽しめたと思います。

・ 絵本でみていた貴重な原画が見られてよかった。鳥の巣を通じて、世界の方々とつながっている。

・ 鈴木まもるさんの研究熱心な姿はすてきだと思った。

・ いわさきちひろが大好きです。ぜひこちらへよんで下さい。

・ 企画展の鈴木まもる氏の作品素晴らしかったです。鳥への深い愛情をひしひしと感じました。鳥の巣も始めてみましたが、自然の素晴らしさ、鳥の、生命の素晴らしさを改めて感じる事ができました。ありがとうございました。

・ 鳥は空を飛ぶために身を軽くしなければならないので子宮の代わりに巣を作るのだという新しい考え方を学ぶことができました。

・ 小山で活躍している方とか、有名でなくても素敵な作品とか展示したらいいのではないかなあと思いました。

・ 小川家の建物も見学できてよかったが写真撮影が不可であること、2階洋室がガラス越しで見られないのが大変残念であった。

・ 近所でみられるチャンスを与えていただけることに感謝致します。有難うございました。

・ 大島英太郎さんの原画展は定期的開催していただきたい。本日、鈴木まもるさんの原画すばらしく、大島さんに通じるものがあり、そのように思いました。

・ とても良い企画、拝見できうれしく思いました。近々、図書館で鈴木さんの本を漁ってみようと思います。企画！ありがとうございました！

・ 鈴木まもるさんの知り合いの方からきて、来ました。今かこさとの展覧会をやっていたので、その話をしたところ、かこさんの最後の絵本の絵を描かれた方と聞いて、興味がわきました。鳥の巣の絵本すばらしかったです。ミュージアムショップがあれば、いろいろなグッズができて、絶対買うのにな、と思いました。

・ とても楽しませていただきました。世界中の自然と触れあえる時がまた早く来ますように。鈴木先生、お体にお気をつけて。また企画展開いてほしいです。

- ・ 今回の企画を立ち上げた学芸員さんに感謝の気持ちでいっぱいです。鳥の巣の実物と原画を一度に見て体験し、この上なく勉強になりました。ありがとうございました。今後の希望として、「みずとはなんじゃ」かこせんせいのラフ画とあわせて鈴木先生の原画が見たいです。
- ・ 鈴木まもるさんの世界にすっかり魅了されました。鳥の巣に大変興味がわきました。面白かったです。原画の美しさも素晴らしかったです。展示方法もよかったですと思います。
- ・ イベントで鳥の巣作りを行い、鳥の巣にも興味を持ちました。絵本作家ということもあって、鳥の絵がきれい！細かいところまでよく描かれているのですばらしいと思いました。本も買いたいと思います。鳥の巣が詳しくわかってよかったです。遠路はるばる来たかいがありました。大満足です。
- ・ 鈴木まもるさんの展示会、本当に面白かったです。もう一度、何度でも来たい！このようなすばらしい企画に出会えて感謝です。またこのような企画展をぜひ開催してください！
- ・ 今、23歳ですが、小学生のころに鈴木まもるさんの講演会に参加しました。大きな巣を実際見たりしたことなど、今でも覚えています。鳥の巣は、たくさん種類があってみていて、とてもワクワクしました。形も面白くて、一回きりしか使われないものなど、もったいないくらいです。また、鳥の画しか知りませんでした。ヘラジカや、恐竜の絵など、いろいろ展示してあって、鈴木さんについてさらに知れてよかったです。
- ・ 昔、日光へ行くために何度も通った鉄道の沿線の風景を懐かしく眺めながら、ゆったり展示を楽しみ、原画と実物の光を浴びることができました。落ち着いた静かな美術館で居心地がよかったです。
- ・ 小学生のころから好きだった鈴木まもるさんの本の原画や巣が見られてよかった。本物の巣をきれいな状態で展示できるのがすごいと思った。
- ・ あまり美術館に行くことはありませんが、素晴らしいものが見られて、来て本当に良かったです。子供に本物を見せるって大切なことですね。
- ・ 絵本原画、自然に関する作品など子供が興味を持ちやすい企画を(たまに)お願いします。鈴木先生にお会いできて感激しました。
- ・ 鳥の巣の魅力を改めて感じました。身近なところで見つけたら、今までと違った見方ができそうです。ありがとうございました。
- ・ 作家の先生が直接、質問など丁寧にご説明してくださったことに感動しました。また何年後かに企画して欲しいです。子供たちにたくさん見てもらいたいです。本も買えたらよかったです。
- ・ 非常に貴重な機会、新しい視点の軸を持って、鈴木先生が生き生きと解説されて、うれしい気持ちになった。なんて素敵な企画だと思う。絵本の売り場がないのか、商売気のなさがまたステキ。
- ・ 遠方ですが、思い切って見に来てよかったです。こじんまりしていますが、見やすい展示がされて楽しめました。
- ・ 初めて来館しましたが、とても雰囲気よかったです。
- ・ 外壁の白が美しいのでどんな企画でも入館前に心をリセットしてから楽しめそうです。
- ・ ゆっくりと展示を見せていただくことができ堪能いたしました。[小川家住宅も見学させていただ](#)

き、思いがけず良い時間でした。ありがとうございました。

- ・ 小川家の説明がとても分かりやすくよかった。中はとても懐かしく見学してよかった。
- ・ 講演会も面白かったです。次は小山の絵本作家「大島英太郎」さんの原画展をお願いします。展示室の係の人の説明もよかったです。ありがとうございました。
- ・ 切手の収集の素晴らしさに脱帽しました。小鳥の絵がかわいくて自分でも描きたくなりました。ありがとうございました。
- ・ 車屋美術館に来ることも、鈴木まもるさんの展示会に行くのも初めてでした。少し遠かったですが、「生物のくらし」に興味がある私からすると、とても興味深い貴重な体験となりました。小川家住宅も、全く知らずに訪れてしまいましたが、今回見させていただいて感慨深いものがありました。丁寧なご説明、ありがとうございました。個人的にはありがたいですが、安すぎると思います。ありがとうございました。
- ・ 企画展、大変晴らしかったです。鳥のすに力をいただいた気がします。先生の絵にやさしさや愛情や夢を覚えました。一枚一枚の一筆一筆がていねいですと見ていたかったです。
- ・ 企画展と同時に、間々田分館で鈴木まもるさんの絵本コーナーを作る、博物館で鳥に関する展示を行うともっと興味が広まるのではないかな、と思います。また、鈴木まもるさんの本の販売もあるとうれしかったです。
- ・ 鈴木先生のお人柄のやさしさに触れ、私も心豊かになりました。説明をお聞きし巣作りに知恵を凝らしていること、人間ももっと身近なところで発見できることもいっぱいあるように思います。今日はすてきな時間を持って幸せでした。鈴木先生のこれからのご活躍をご期待しております。このような展示会を開いていただきありがとうございました。
- ・ 駅からの案内がわかりにくかった。

《第55回「Articulation 一区切りと生成」展期間中アンケート》

- ・ 今回の企画展すごくよかったと思います。後期の作品も期待してます。竹本悠太郎の謳うブロンズ像に圧倒されました。ほかの作品も生きているようで不思議な感じがしました。生井亮司の子供の作品が昔の自分に似てるなど面白い作品だと思いました。
- ・ 500円にしてはちょっと物足りない。作品の説明(解説)もちょっと足りないかな。インスタレーションだけでなく、アーティストの映像の作品も期待しています。できれば、トリエンナーレでもいいから、芸術祭を開催してほしい。
- ・ 今回のようないろいろな作家の作品が鑑賞できる企画展が見たいです。特定の分野(例、彫刻、工芸等)だとその分野が好きな人しか見に来ないと思います。若手の作家が表現できる機会を増やしてほしいです。
- ・ 今回2回目です。子供と2人、小川家を散策しながら作品を見つけるのが楽しかったようです。ありがとうございました。
- ・ すごく素敵でした！企画展の規模が思っていたよりも大きくて、多様な手法の作品を見ることができて面白かったです。小川家の中も、時代が感じられて興味深かったです。2階の洋室が素敵でした！天井もかわいらしく、この時代のお部屋を自分でも調べてみようと思いました！

・彫刻から映像まで、様々な形態の作品が一同に集まっていて面白かったです。教育に携わられているということもあり、美大生として身近に感じる展示でした。小川家住宅は古風と洋風が合わさったお家で、とても見て感動しました。住んでみたいです。

・「区切りと生成」とても面白かったです。作品も、文章もテーマも興味深かったです。自分が小山市在住ということもあり、小山の風景が切り取られた作品では、身近な物なのに、まったく知らないもののような、不思議な気持ちでした。車屋美術館には以前来たことがありましたが展示が違えば、まったく違う場所のように思えます。蔵の中、等身大の造形物が展示されているのも知らない人の知らない作者のものなのに、神々しいものを感じ、人間は単純なことで心動かされるんだなあと思ったりしました。大変面白かったです。ありがとうございました。

・企画展を行っていらした方々の集まった理由、出会った時の場所などが知りたかったです。作品の方々それぞれの個性を感じ、とても有意義な時間を過ごせました。ありがとうございました。

・小川家住宅に作品が展示されているのは、良かったと思います。11月で庭園の紅葉も美しかったです。

・知人(出展者)の紹介で伺いました。場の雰囲気と作品があっていて、ゆったりとみることができ、良かったです。

・いつも企画展を楽しませていただいています。ありがとうございます。

・小山市内にある美術館なのでたくさんの市民が利用して欲しい。小川家住宅や蔵が個人的に好きです。

《第8回「10×15」公募展期間中アンケート》

・とても楽しく興味を持って拝見しました。ぜひ次回私も応募させていただきたいです。

・日本全国から応募がありびっくり。小学生、中学生、幼稚園生、大人…それぞれの個性があり見てとても楽しかったです。特別審査員の方の作品も見られ大変良かったです。ありがとうございました。

・年々、素晴らしい作品ばかりで今年も楽しみに来ました。特別審査員の方の絵も、引き寄せられる魅力があり、本当に楽しませていただきました。ありがとうございます。

ご協力ありがとうございました。

5. コロナ対策について

当館では今年度も、新型コロナウイルス感染症の感染予防・拡大防止のため、入館者の皆さまに入館票の記入、検温、手指の消毒、マスクの着用、混雑時の入館人数の制限などについて協力を呼びかけるなど、引き続きコロナ対策を実施しました。

Ⅱ 小川家住宅公開事業

平成19年に国登録有形文化財となった「小川家住宅」(小山市文化財展示施設条例第2条)の公開を通年実施しています。

登録となっている文化財は5件で「主屋」、「土蔵」、「肥料蔵」、「米蔵」、「表門」で、保存と活用のバランスを考慮しながら、それぞれの形で来館者が見学できるようになっています。特に主屋の見学に際しては、希望者に対してボランティアスタッフが解説を行っており、より深い理解とその貴重さを再認識することができたという声を多くいただいております、好評を博しています。

また、企画展示の中には住宅スペースをはじめとした登録文化財も展示空間として活用するなど、美術館ならではの文化財活用の試みも行われており、当館の特徴ともなっています。収蔵作品を持たない当館にとっては、小川家住宅公開は来館者へ通年提供することができる重要な事業の一つとなっています。



小川家住宅主屋



旧米蔵(展示室)

Ⅲ 展覧会事業

1. 第53回企画展 「アートリンクとちぎ2022 栃木県立美術館収蔵品展 野澤一郎が愛した美術展」

【会 期】 令和4年4月23日(土)～6月5日(日)

【開館日数】 36 日間 ※無料公開日 5月5日(こどもの日)、18日(国際博物館の日)

【入 場 者】 1,198名(1日平均 33.2名)

【観 覧 料】 有料:一般 400(300)円、高校・大学生 250(150)円

中学・義務教育学校生以下無料、障がい者手帳お持ちの方と付添一名無料

※ミュージアム割引:小山市立博物館の半券(2022年4月以降の日付印がある

もの、年度内1回限り有効)で、一般100円、高校・大学生50円割引

※()内は20名様以上の団体料金

【種 別】 小山市立車屋美術館・栃木県立美術館主催

【後 援】 朝日新聞宇都宮総局、NHK宇都宮放送局、(株)エフエム栃木、産経新聞社宇都宮支局、下野新聞社、テレビ小山放送、FMおーラジ、東京新聞宇都宮支局、(株)とちぎテレビ、(株)栃木放送、毎日新聞宇都宮支局、読売新聞宇都宮支局

【展示概要】

「アートリンクとちぎ」は、栃木県立美術館収蔵品を県内ミュージアムに貸出し開催する館外展で、当館ではこれまでに2年に1回程度のペースで、協力いただいて実施しています。

野澤一郎氏(1888～1978、現栃木県河内郡上三川町出身)が創業した(株)巴コーポレーションが地元小山に製造拠点を置いている縁があることから、野澤一郎コレクション展を計画しました。

コレクションの内容は、江戸後期～昭和時代に中央画壇で活躍した日本画家および彫刻家の作品と、栃木県ゆかりの日本画家による作品が含まれる23点で、本展では21点を展示しました。中でも椿椿山《花籠》や《三十六歌仙絵》(作者、制作年不詳、六曲一双屏風)という近世の作品を、当館で鑑賞できる貴重な機会でしたので、展覧会の目玉としました。また、野澤一郎氏筆の写生帖、木内克作《野澤一郎像(レプリカ)》など野澤氏に関する資料展示、解説パネルに出品作家の似顔絵(当館の中野館長制作)を添えるなどして、展示に特徴をもたせました。

県出身実業家による珠玉のコレクション公開でしたので、客層としては美術愛好家のほか、野澤氏にゆかりのある方々も多く、そのため初来館者の割合が高かったようです。作品の質の高さに感動した、ゆっくりと鑑賞出来て満足した、作品鑑賞会などに参加して理解が深まった、という感想を多くいただきました。来館の理由は様々でも、実物の美術品に接する機会を得て、来館者が美術に興味をもったり関心が高まるきっかけを提供できたと考えます。

【関連事業】

日時	内容	会場	参加人数
4月30日(土) 5月8日(日) 6月5日(日) 14:00-14:30	①担当学芸員による作品鑑賞会 講師:当館学芸員 五十嵐直子	当館展示室	6名 12名 13名
5月15日(日) 14:00-15:00	②ギャラリートーク 講師:志田康宏氏 (栃木県立美術館学芸員)	当館展示室	12名
5月29日(日) 13:00-15:00	③スタディプログラムワークショップ 「龍、ドラゴンを想像してみよう～墨と水のわざ」(水墨画の運筆を使って、それぞれの思い描く龍・ドラゴンを描いた。) 講師:谷中美佳子氏(日本画家)	小山市立博物館 体験学習室	7名

【作品リスト】

No.	作家名	作品名	制作年	サイズ (cm)	形状	素材・技法	所蔵
1	田崎草雲	夏山過雨	1887年	169.6×55.1	軸装	絹本着色	栃木県立美術館
2	橋本雅邦	初秋漁村図	不詳	96.9×34.8	軸装	絹本着色	栃木県立美術館
3	川合玉堂	秋景山水	不詳	149.0×80.2	軸装	紙本着色	栃木県立美術館
4	竹内栖鳳	風薫双塔寺	不詳	63.3×71.5	軸装	絹本着色	栃木県立美術館
5	小川芋銭	野干灯 (展示期間 5/17~6/5)	不詳	32.1×47.5	軸装	絹本着色	栃木県立美術館
6	小川芋銭	長沙散歩 (展示期間 4/23~5/15)	不詳	45.2×64.2	軸装	紙本着色	栃木県立美術館
7	小室翠雲	瑞西所見	1931年	67.5×112.7	軸装	紙本着色	栃木県立美術館
8	川端龍子	鏑矢	不詳	71.3×95.6	絹本	絹本着色	栃木県立美術館
9	松林桂月	欧陽脩秋声賦	1960年	69.2×86.1	軸装	絹本着色	栃木県立美術館
10	安田靉彦	薩埵王子捨身図	1911年頃	126.0×41.8	軸装	紙本着色	栃木県立美術館
11	島田墨仙	法然上人と蓮生坊熊谷	不詳	62.3×72.1	軸装	絹本着色	栃木県立美術館
12	前田青邨	陣中愛茶	1930年頃	52.6×72.5	軸装	絹本着色	栃木県立美術館
13	堂本印象	陣中の月	1935年	69.3×86.4	軸装	絹本着色	栃木県立美術館
14	富岡鉄斎	日月長図	1909年	151.0×82.1	軸装	紙本墨画	栃木県立美術館
15	松本姿水	彩秋	不詳	143.0×50.35	軸装	絹本着色	栃木県立美術館
16	松本姿水	春蘭	不詳	45.7×52.0	軸装	紙本着色	栃木県立美術館

17	松林桂月	蘭	1960年	30.5×152.0	額装	紙本墨画	栃木県立美術館
18	清水多嘉示	岩に倚る	不詳	13.5×31.0×36.0	彫刻	ブロンズ	栃木県立美術館
19	木内 克	裸 婦	不詳	18.0×15.0×35.5	彫刻	ブロンズ	栃木県立美術館
20	椿 椿山	花 籠	不詳	137.9×69.2	軸装	絹本着色	栃木県立美術館
21	不詳	三十六歌仙絵	不詳	各 145.5×360	六曲一双 屏風	紙本着色	栃木県立美術館

【資料リスト】

No.	作家名	作品名	制作年	サイズ (cm)	形状	素材・技法	所蔵
1	木内 克	野澤一郎像(レプリカ)		35×47×67	彫刻	石膏	(株) 巴コーポレーション
2	野澤一郎	写生帖 龍王峡正丸峠	1954年頃	18×12×1.5	折本	紙本墨画 淡彩	(株) 巴コーポレーション
3	野澤一郎	写生帖 耶馬溪群猿峯瑞光寺	1954年頃	18×12×1.5	折本	紙本墨画 淡彩	(株) 巴コーポレーション
4	野澤一郎	写生帖 北京城写生帖	1940年頃	15.8×11.7×2	折本	紙本墨画 淡彩	(株) 巴コーポレーション
5	野澤一郎	写生帖 嵐山その他五百羅かん	1954年頃	17.5×12×1.8	折本	紙本墨画 淡彩	(株) 巴コーポレーション
6	野澤一郎	写生帖 北海道松島走廻り	1952年頃	15.8×11.7×2	折本	紙本墨画 淡彩	(株) 巴コーポレーション
7	野澤一郎	写生帖 美人写生	不詳	17.5×12×1.5	折本	紙本墨画 淡彩	(株) 巴コーポレーション
8	野澤一郎	写生帖 蓮華蓮池写生ゴルフ場	1942年頃	16.5×12×1.5	折本	紙本墨画 淡彩	(株) 巴コーポレーション
9	野澤一郎	『新築記念野澤一郎 回顧展画集』	1960年 発行		書籍		(株) 巴コーポレーション
10	野澤一郎	『野澤一郎創業五十 年画業五十年記念 画集』	1968年 発行		書籍		(株) 巴コーポレーション

2. 第54回企画展「鈴木まもる 絵本と世界の鳥の巣」展

【会 期】 令和4年7月9日(土)～9月11日(日)

【開館日数】 53日間

【入 場 者】 4,213名(1日平均:79.4名)

【観 覧 料】 有料:一般400(300)円、高校・大学生250(150)円

中学・義務教育学校生以下無料、障がい者手帳お持ちの方と付添一名無料

※ミュージアム割引 小山市立博物館の半券(2022年4月以降の日付印のあるもの、年度内1回限り有効)で一般100円、高校・大学生50円割引

※()内は20名様以上の団体料金

【種 別】 自主企画

【後 援】 朝日新聞宇都宮総局、エフエム栃木、産経新聞社宇都宮支局、下野新聞社、テレビ小山放送、FMおーラジ、東京新聞宇都宮支局、株式会社とちぎテレビ、栃木放送、毎日新聞社宇都宮支局、読売新聞宇都宮支局

【展示概要】

鳥の巣の造形美に魅せられて収集と研究を続ける絵本作家・鈴木まもるの絵本原画77点と鳥の巣の実物20点を展示し、巣と絵をならべ一緒に見ることで鳥の生態が分かるようにしました。世界各地にすむ鳥の巣の実物を見て新鮮な発見があった、絵が美しく子どもも分かりやすかった、作者の熱意に感激したという声が多く聞かれました。会期中に鈴木まもる氏が計12日美術館に滞在し、展示解説をしてくださったことで、鑑賞者の理解が深まり、リピーターや鑑賞者が知人や家族を連れてくるケースが目立ちました。子どもからシニア層まで、それぞれの興味に応じて展示を楽しんでもらえたようです。

昨年の渡良瀬遊水地での、コウノトリのひな誕生から巣立ちまでをまとめた映像放映も人気が高く、鳥の巣を通じて、美術的視野から自然にも目を向けるきっかけを作ることができました。

【関連事業】

日 時	内 容	会 場	参加人数
7月23日(土) 13:30-16:00	記念講演会 「絵本と鳥の巣の不思議」 講師:鈴木まもる	小山市立博物館 視聴覚室	53名
5月29日(日) 10:00-12:00 13:30-15:30	ワークショップ 「鳥の巣をつくってみよう」 講師:鈴木まもる	小山市立博物館 体験学習室	83名

【作品リスト】

No.	タイトル	制作年	サイズ(縦×横mm)	素材
絵画 4点				
1	Bird's nests of the World	2012年	58.5×41.7	紙、アクリルガッシュ
2	生命をもとめて	2018年	150×106	紙、アクリルガッシュ
3	鳥の巣の多様性	2018年	156×115	紙、アクリルガッシュ
4	Inside	2018年	143×98	紙、アクリルガッシュ
絵本原画 77点				
詩画集『鳥の巣のうた』 詩・絵 鈴木まもる 岩崎書店 1999年				
	バオバブの木とハタオリドリ		56.5×40.5	紙、アクリルガッシュ
	Wish you were here		56.5×40.5	紙、アクリルガッシュ
『世界の鳥の巣の本』 作・絵 鈴木まもる 岩崎書店 2001年				
	表紙		38.5×29.5	紙、アクリルガッシュ
	世界地図	p4-5	33.5×50.5	紙、アクリルガッシュ
	地上の巣	p10-11	33.5×49.5	紙、アクリルガッシュ
	地上の巣	p12-13	33.5×49.5	紙、アクリルガッシュ
	おわん型の巣	p28-29	33.5×49.5	紙、アクリルガッシュ
	カップ型の巣	p30-31	33.5×49.5	紙、アクリルガッシュ
	横枝カップ型の巣	p32-33	33.5×49.5	紙、アクリルガッシュ
	つりさげカップ型の巣	p34-35	33.5×49.5	紙、アクリルガッシュ
	洋ナシ型の巣	p38-39	33.5×49.5	紙、アクリルガッシュ
	その他の形の巣	p46-47	33.5×49.5	紙、アクリルガッシュ
	やぶの中の巣	p52-53	33.5×49.5	紙、アクリルガッシュ
『鳥の巣いろいろ』 作・絵 鈴木まもる 偕成社 2006年				
	葉につけた巣	p14-15	28.5×62.5	紙、アクリルガッシュ
	枝の巣	p16-17	28.5×62.5	紙、アクリルガッシュ
	つり巣	p18-19	28.5×62.5	紙、アクリルガッシュ

『ぼくの鳥の巣絵日記』 作・絵 鈴木まもる 偕成社 2005年				
	「冬」	p8-9	34.5×58.5	紙、アクリルガッシュ
	「春」	p10-11	34.5×58.5	紙、アクリルガッシュ
	「霧の朝」	p20-21	34.5×58.5	紙、アクリルガッシュ
	「秋」	p32-33	34.5×58.5	紙、アクリルガッシュ
『わたり鳥』 作・絵 鈴木まもる 童心社 2017年				
	p10-11,14-15,32-33,34-35		30×61	紙、アクリルガッシュ
	p16-17		60×29	紙、アクリルガッシュ
『巣箱のなかで』 作・絵 鈴木まもる あかね書房 2018年				
	p7,11,13,27		31×22	紙、アクリルガッシュ
『ツバメのたび』 作・絵 鈴木まもる 偕成社 2009年				
	p14,15		28×61	紙、アクリルガッシュ
『鳥の巣ものがたり』 作・絵 鈴木まもる 偕成社 2007年				
	p10-11		32×57	紙、アクリルガッシュ
	p26-27		35×45	紙、アクリルガッシュ
『あるヘラジカの物語』 原案 星野道夫/絵と文 鈴木まもる あすなろ書房 2020年				
	表紙		31.5×37.5	紙、アクリルガッシュ
	p4-5,6-7, 8-9,16-17,20-21, 26-27,28-29,32-33		32×66	紙、アクリルガッシュ
『せんろはつづく にほんいっしゅう』 文・絵 鈴木まもる 金の星社 2021年				
	表紙		32×32	紙、アクリルガッシュ
	p2-3,4-5,6-7,8-9, 10-11,12-13,14-15,16-17,18-19,20-21,22-23,24-25,26-27,28-29,30-31		29×59	紙、アクリルガッシュ
	『雪わたり』 作 宮沢賢治/絵 鈴木まもる 講談社 1986年		27×44	紙、アクリルガッシュ
	『黒ねこサンゴロウ』 文 竹下文子/絵 鈴木まもる 偕成社 1994年		16.3×12.3、 20.6×19.6	紙、ペン、アクリルガッシュ
	『みんなあかちゃんだった』 作 鈴木まもる 小峰書店 2000年		28×47.5	紙、ペン、アクリルガッシュ
	『あなたがだいすき』 作・絵 鈴木まもる ポプラ社 2002年		19×19	紙、アクリルガッシュ

『わたしおてつだいねこ』作 竹下文子/絵 鈴木まもる 金の星社 2002年	19×15	紙、色鉛筆
『ときときとき』作 竹下文子/絵 鈴木まもる 小峰書店 2004年	23×20	紙、アクリルガッシュ
『つみきでとんとん』文 竹下文子/絵 鈴木まもる 金の星社 2005年	27×57	紙、アクリルガッシュ
『ちいさいイスのはなし』作 竹下文子/絵 鈴木まもる ハッピーオウル社 2006年	29×22	板、アクリルガッシュ
『がんばれ！パトカー』作 竹下文子/絵 鈴木まもる 偕成社 2007年	20×59.5	紙、アクリルガッシュ
『おまかせコックさん』文 竹下文子/絵 鈴木まもる 金の星社 2007年	29×59	紙、アクリルガッシュ
『おすしのせかいりょこう』文 竹下文子/絵 鈴木まもる 金の星社 2008年	27.8×57.5	紙、アクリルガッシュ
『だんろのまえて』作・絵 鈴木まもる 教育画劇 2008年	20.5×43.5	紙、アクリルガッシュ
『はしれディーゼルきかんしゃデーデ』文 すとうあさえ/絵 鈴木まもる 童心社 2013年	22.5×45	紙、ペン、アクリルガッシュ
『ウミガメものがたり』作・絵 鈴木まもる 童心社 2016年	31×61	紙、アクリルガッシュ
『てをつなく』作・絵 鈴木まもる 金の星社 2017年	28×57.5	紙、アクリルガッシュ
『みずとはなんじゃ?』作 かこぎとし/絵 鈴木まもる 小峰書店 2018年	29×33	紙、アクリルガッシュ
『ティラノサウルスのはらべこないちにち』著 竹下文子/絵 鈴木まもる 偕成社 2020年	24.5×61	紙、アクリルガッシュ
『どこからきたの おべんとう』作・絵 鈴木まもる 金の星社 2020年	32×62	紙、色鉛筆、アクリルガッシュ
『戦争をやめた人たち 1914年のクリスマス休戦』文・絵 鈴木まもる あすなる書房 2022年	29×35	紙、色鉛筆

鳥の巣 20点、卵 1点

カササギ	キムネコウヨウジャク	オナガサイホウチョウ
セアカカマドドリ	クロガシラシュウダンハタオリ	リュウキュウサンショウクイ
ワタボウシハチドリ	ハシナガチビオムシクイ	ノゴマ
アフリカヤシアマツバメ	ハシナガタイランチョウ	シヨクヨウアマツバメ
ハシブトハタオリ	ツリスガラ	キバラアフリカツリスガラ
オビオヒゲハチドリ	ダチョウの卵	オオツリスドリ

写真 18点

シャカイハタオリ	ヤブツカツクリ	ニワシドリ
----------	---------	-------

世界の切手 2点

3. 第55回企画展「Articulation — 区切りと生成」展

- 【会 期】 令和4年10月22日(土)～12月18日(日)
[前期 10月22日(土)～11月20日(日)・後期 11月23日(水・祝)～12月18日(日)]
- 【開館日数】 45日間 ※無料公開日 11月3日(文化の日)、23日(勤労感謝の日)
- 【入 場 者】 1,614名(1日平均: 35名)
- 【観 覧 料】 一般 500(360)円、高校・大学生 300(180)円、中学生および義務教育学校生以下無料 ※小川家住宅にも作品を展示するため、小川家住宅入館料を含む。
*障がい者手帳お持ちの方と付添一名無料 *おやまミュージアム割引 小山市立博物館の半券(2022年4月以降の日付印があるもの。年度内1回限り有効)で一般100円、高校・大学生50円を割引 *()内は20名様以上の団体料金 *リピーター割引:本展を2回以上ご観覧の場合、前回半券(領収印があるもの。1回限り有効)提示で団体料金で観覧できる。(ほかの割引との併用不可)
- 【種 別】 自主企画
- 【後 援】 朝日新聞宇都宮総局、(株)エフエム栃木、産経新聞社宇都宮支局、下野新聞社、テレビ小山放送、FMおーラジ、東京新聞宇都宮支局、(株)とちぎテレビ、(株)栃木放送、毎日新聞社宇都宮支局、読売新聞宇都宮支局

【展示概要】

小山市在住の彫刻家・生井亮司ら若手アーティスト14人を通して「アートによる探究」という新しい視点を体験できる展覧会でした。藤原彩人はゲストとして出品。そのほかの13人は、近年日本でも広まりつつある「芸術に基づく研究(ABR)」に携わるアーティストで、会場には自己批評を論じた文章を掲載した図録を置き、作家の思考に触れられるようにしました。国内の美術館でABRの企画展を開催するのはおそらく初めてで、鑑賞者には展示作品の鑑賞とあわせて、作品の土壌になっている千差万別な世界のとらえ方を体験してもらおう意図がありました。

小川家住宅主屋、肥料蔵、庭園にも作品展示を行い、マップ形式の作品リストを作成し、お客様には地図をたよりに作品を探索しながら、敷地内全体を鑑賞してもらいました。特に藤原彩人は、粘土を素材とした立体を庭園内の灯籠にひそませる作品を作り、宝探し風アプローチを楽しんでもらうことができました。

シンポジウムやアーティストによるギャラリートークは、主に制作過程での思索に関すること、芸術活動をはじめたきっかけについてなど作家本人の言葉を聞くことのできる貴重な機会となり、特にシンポジウムは、白鷗大学生の参加が多く、質問も活発にできるなど関心の高さが目立ちました。

- 企画監修 生井亮司(彫刻家、武蔵野大学 教授)・小松佳代子(長岡造形大学 教授)
- 出品アーティスト 生井亮司 藤原彩人 三好風太 竹本悠太郎 さかいともみ 岩本彩花 長島さと子 飯塚純 石黒英美代 菊地匠 南雲まき 山本玲央 橋本大輔 櫻井あすみ

【関連事業】

日時	内容	会場	参加人数
11月23日 (水・祝) 14:00-16:00	シンポジウム 「アーティストは何を探究しているのか」 パネリスト: 富井 大裕(彫刻家/武蔵野美術大学教授)、藤原 彩人(彫刻家)、生井 亮司(彫刻家/武蔵野大学教授)、小松 佳代子(長岡造形大学教授)	小山市立博物館 視聴覚室	47名
11月23日 (水・祝) 10:00-12:00	ワークショップ 「モノが作品になるとき—芸術家と作品のあいだを旅するワークショップ」 プロジェクトコーディネーター: 竹丸 草子	小山市立博物館 視聴覚室	30名
11月20日(日) 14:00-15:15	ギャラリートーク 「参加アーティストによるギャラリートーク(前期)」 講師: 小松 佳代子、生井 亮司、長島 さと子、さかいともみ、岩本 彩花、飯塚 純、三好 風太、竹本 悠太郎	企画展示室、 肥料蔵	26名
12月18日(日) 14:00-15:30	ギャラリートーク 「参加アーティストによるギャラリートーク(後期)」 講師: 小松 佳代子、生井 亮司、藤原 彩人、櫻井 あすみ、菊地 匠、南雲 まき、山本 玲央	企画展示室、 肥料蔵	33名
12月3日(土) 14:00-15:00	ワークショップ 「中学・高校生対象の作品鑑賞会」 ファシリテーター: 生井 亮司	企画展示室	4名

【作品リスト】 前期

No.	作家名	作品名	サイズ (縦×横×奥行mm)	素材	制作年	会場
1	藤原彩人	像化一軸と周囲—03	1030×540×520	陶	2021	展示室
2	藤原彩人	台化一軸と周囲—06	780×550×430	陶	2022	展示室
3	藤原彩人	台化一軸と周囲—07	780×500×420	施釉陶	2022	展示室
4	藤原彩人	台化一軸と周囲—08	780×510× 560	施釉陶	2022	展示室
5	藤原彩人	台化一軸と周囲—09	780×440×520	施釉陶	2022	展示室
6	生井亮司	form of form - 202110a	200×250×270	乾漆	2021	展示室

7	生井亮司	あめつちのあわい	サイズ可変	乾漆、木	2022	展示室
8	生井亮司	Poetics of a boy -The day I saw the air	1400×600×400	乾漆、コンクリート	2019	展示室
9	生井亮司	Poetics of a boy - The miracle of being and the meaninglessness of being.	1500×600×400	乾漆、コンクリート	2022	展示室
10	長島さと子	Identify Identitiesー政子氏の肖像ー	745×600	ppt フィルム、インクジェットプリント	2018	展示室
11	長島さと子	Identify Identitiesー糸み子氏の肖像ー	850×600	ppt フィルム、インクジェットプリント	2019	展示室
12	さかいともみ	mezzo 1	1620×1120	キャンバス、小国和紙、油彩	2022	展示室
13	さかいともみ	mezzo 2	1620×1120	キャンバス、小国和紙、油彩	2022	展示室
14	さかいともみ	mezzo 3	1620×1120	キャンバス、小国和紙、油彩	2022	展示室
15	さかいともみ	segno 1	1120×1620	キャンバス、小国和紙、油彩	2022	展示室
16	さかいともみ	segno 2	1120×1620	キャンバス、小国和紙、油彩	2022	展示室
17	岩本彩花	あまり変わらない	160×160	小国和紙、油性インク	2022	展示室
18	岩本彩花	白紙と葛藤	300×300(6点)	小国和紙、油性インク、水彩	2022	展示室
19	岩本彩花	窓から見える	140×180	ハーネミュレ、油性インク	2017	展示室
20	岩本彩花	わりと出てる	180×255	小国和紙、油性インク、水彩	2022	展示室
21	飯塚 純	MEMORY-OBJECT	180×150×130	ソフトビニール人形	2022	展示室
22	三好風太	世界図鑑 I	可変	映像、写真、紙、アクリル板	2022	展示室
23	竹本悠太郎	おもかげー森に澄むー	600×400×250	乾漆、金箔	2022	肥料蔵
24	竹本悠太郎	謳う	2100×800×800	乾漆	2022	肥料蔵
25	竹本悠太郎	蒼い月	450×150×250	ブロンズ	2020	肥料蔵
26	竹本悠太郎	西の島からの便り	450×300×300	乾漆	2020	肥料蔵
27	竹本悠太郎	おもかげーFather ed.1ー	400×150×200	乾漆、大理石	2020	肥料蔵
28	竹本悠太郎	おもかげーA little brother ed.3ー	350×150×250	テラコッタ	2021	肥料蔵

【作品リスト】 後期

No.	作家名	作品名	サイズ (縦×横×奥行mm)	素材	制作年	会場
1	藤原彩人	像化一軸と周囲一03	1030×540×520	陶	2021	展示室
2	藤原彩人	台化一軸と周囲一06	780×550×430	陶	2022	展示室
3	藤原彩人	台化一軸と周囲一07	780×500×420	施釉陶	2022	展示室
4	藤原彩人	台化一軸と周囲一08	780×510× 560	施釉陶	2022	展示室
5	藤原彩人	台化一軸と周囲一09	780×440×520	施釉陶	2022	展示室
6	生井亮司	form of form - 202110a	200×250×270	乾漆	2021	展示室
7	生井亮司	あめつちのあわい	サイズ可変	乾漆、木	2022	展示室
8	生井亮司	Poetics of a boy -The day I saw the air	1400×600×400	乾漆、コンクリート	2019	展示室
9	生井亮司	Poetics of a boy - The miracle of being and the meaninglessness of being.	1500×600×400	乾漆、コンクリート	2022	展示室
10	櫻井あすみ	behind snow	190×273(3点)	木製パネル、和 紙、顔料、箔	2022	展示室
11	櫻井あすみ	behind snow	727×1167	木製パネル、和 紙、顔料、箔	2022	展示室
12	櫻井あすみ	behind snow	158×227(6点)	木製パネル、和 紙、顔料、箔	2022	展示室
13	櫻井あすみ	ATLAS of a snow town(February)	600×450(4点)	アクリル板、写真	2022	展示室
14	櫻井あすみ	ATLAS of a snow town(March)	600×450(4点)	アクリル板、写真	2022	展示室
15	櫻井あすみ	ATLAS of a snow town(painted)	652×500	木製パネル、和 紙、顔料、箔	2022	展示室
16	櫻井あすみ	behind snow(reframed)	246×333	ミクストメディア	2022	展示室
17	櫻井あすみ	behind snow	246×333(2点)	木製パネル、和 紙、顔料、アクリ ル板,	2022	展示室
18	菊地 匠	halōn7	1500×900	パネル、紙、岩絵 具	2022	展示室
19	菊地 匠	中庭で眠る 1	1303×1620	パネル、紙、岩絵 具	2022	展示室
20	菊地 匠	place	1450×1120	パネル、紙、岩絵 具	2022	展示室

21	菊地 匠	Olympia 5	697×1303	パネル、紙、岩絵具	2022	展示室
22	橋本大輔	大御堂のスタジイ	1940×2590	キャンバス、油彩	2021	展示室
23	石黒芙美代	Leaf and the Leaf (photo ver.)	120×166(100 枚)	和紙にインクジェット顔料プリント	2022	展示室
24	南雲まき	Concordia	180×180	リノカット	2022	展示室
25	南雲まき	Spira	180×180	リノカット	2022	展示室
26	南雲まき	Nebula	180×180	リノカット	2022	展示室
27	南雲まき	Harmony	100×100	リノカット	2022	展示室
28	南雲まき	Resonanse	100×100	リノカット	2022	展示室
29	南雲まき	Effect	100×100	リノカット	2022	展示室
30	南雲まき	Monologia	400×300	リノカット	2022	展示室
31	南雲まき	Eternal	380×480	リノカット	2022	展示室
32	南雲まき	Recollection I	250×900	リノカット	2022	展示室
33	南雲まき	Recollection II	250×900	リノカット	2022	展示室
34	南雲まき	空のまばたき	727×910	パネル、油彩	2021	展示室
35	南雲まき	循環	970×1300	パネル、油彩	2021	展示室
36	南雲まき	明滅	970×1300	パネル、油彩	2022	展示室
37	南雲まき	Rhythm I	100×100×100 (2 点)	リノカット	2022	展示室
38	南雲まき	Rhythm II	100×100×100 (2 点)	リノカット	2022	展示室
39	南雲まき	Rhythm III	100×100×100 (8 点)	リノカット	2022	展示室
40	山本玲央	Mnemonics: 04	300×450	木製パネル、漆	2019	肥料蔵
41	山本玲央	Mnemonics: 06/07	450×900	木製パネル、漆	2022	肥料蔵
42	山本玲央	Fragments: 07	500×500	木製パネル、漆	2021	肥料蔵
43	山本玲央	Mnemonics: 08	500×500	木製パネル、漆	2022	肥料蔵

4. 第8回「10×15の世界コンテスト展」

【会 期】 令和5年1月14日(土)～1月29日(日)

【開館日数】 13日間

【入 場 者】 789名(1日平均:60名)

【観 覧 料】 無 料

【種 別】 自主企画

【展示概要】

ポストカードの公募型展覧会です。紙媒体によるコミュニケーションの特質の再考を提案するもので、今回で8回目となりました。

例年通り、小山市長賞、小山市議会議長賞、小山市教育長賞、小山市立車屋美術館長賞、特別審査員賞の各賞を設け、表彰を行いました。また、令和4年度特別審査員谷中美佳子氏(日本画家、小山市出身)の作品を展示し、市ゆかりの作家を広く紹介しました。

【関連事業】

①表彰式

日 時:令和5年1月14日(土)10:00～ 会 場:車屋美術館 企画展示室

②動画公開

コンテスト展の展示風景動画を小山市公式 Youtube チャンネルで公開しました。

[令和5年2月7日(月)～公開中]

【その他】

作品応募期間: 令和4年11月1日(火)～11月30日(水)消印有効

全国応募総数: 378点 (うち市内在住者104点、栃木県内170点)

栃木県外からの応募状況(1道1都2府35県)

《表彰作品受賞者》 入賞 5名、入選 24名

- ◇小山市長賞 井口 康子 様 (栃木県小山市)
- ◇小山市議会議長賞 太田 さくら 様 (栃木県小山市)
- ◇小山市教育長賞 岩佐 悠之介 様 (埼玉県さいたま市)
- ◇小山市立車屋美術館長賞 原 かおり 様 (栃木県小山市)
- ◇谷中美佳子賞(第8回特別審査員選) 荒井 美柚羽 様 (北海道札幌市)

《 受賞作品 》



小山市長賞



小山市議会議長賞



車屋美術館長賞



小山市教育長賞

谷中美佳子賞
(第8回特別審査員選)



【谷中美佳子(令和4年度特別審査員)展示作品】

No.	作品名	サイズ(縦×横mm)	材質	形状	制作年	所蔵
1	花まつり	1140×820	絹本着色	額装	2023	作家蔵
2	憂世の夢~卯月の蛇~	1650×950	絹本着色	額装	2023	作家蔵
3	憂世の夢~皐月の蛇~	1650×950	絹本着色	額装	2023	作家蔵
4	夢幻	950×1640	絹本着色	軸装	2020	作家蔵
5	春うらら	1055×490	絹本着色	軸装	2019	作家蔵
6	月夜に	1055×490	絹本着色	軸装	2019	作家蔵
7	夏の日々	272×355	絹本着色	軸装	2017	作家蔵

IV 教育普及事業

1. スタディプログラム、ワークショップ(当館主催事業) 参加人数 151名

美術に関わることを幅広く学ぶためのスタディプログラムを実施しています。開催する企画展等にあわせて鑑賞とは異なる視点から美術を体験していただく講座を企画し、美術作品の創作や展示会企画の疑似体験などを通して、美術に親しんでもらうことを目的に実施しています。

日時	内容	会場	参加人数
5月29日(日) 13:30-16:00	スタディプログラム ワークショップ 「龍、ドラゴンを想像してみよう～墨と水のわざ」 講師:谷中 美佳子(日本画家)	小山市立博物館 視聴覚室	7名
7月24日(日) ①10:30-12:00 ②13:30-15:00	ワークショップ(第54回企画展記念事業) 「鳥の巣をつくってみよう」 講師:鈴木まもる(絵本作家)	小山市立博物館 体験学習室	83名
11月23日(水・祝) 10:00-12:00	ワークショップ(第55回企画展記念事業) 「モノが作品になるときー芸術家と作品のあいだを旅するワークショップ」 講師:竹丸 草子(長岡造形大学大学院博士課程3年)	小山市立博物館 体験学習室	30名
令和5年 2月26日(日) ①10:30-12:00 ②13:30-15:00	親子で楽しむワークショップ 「ART のひきだし・素材を楽しむ～木のカタチに描いてアクセサリーをつくる」 講師:すぎやま りえ(土と布作家)	小山市立博物館 視聴覚室	31名

2. ギャラリートーク、講演(当館主催事業) 参加人数 206名

展覧会や作家の魅力の一端に触れていただくため、アーティストや担当学芸員が展覧会の趣旨や概要について解説するギャラリートークなどを実施しています。

令和4年度も、昨年を引き続き、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況に応じた対策を講じた上で実施しました。

日時	内容	会場	参加人数
5月15日(日) 14:00-15:00	ギャラリートーク(第53回企画展記念事業) 「野澤一郎が愛した美術」 講師:志田 康宏(日本画家)	展示室	12名
①4月30日(土) ②5月8日(日) ③6月5日(日) 各14:00-14:30	作品鑑賞会(第53回企画展記念事業) 担当学芸員による作品鑑賞会 担当:当館学芸員 五十嵐 直子	展示室	①6名 ②12名 ③13名

7月23日(土) 13:30-16:00	記念講演会(第54回企画展記念事業) 「絵本と鳥の巣の不思議」 講師:鈴木まもる	小山市立博物館 視聴覚室	53名
11月23日(祝・日) 14:00-15:30	シンポジウム(第55回企画展記念事業) 「アーティストは何を探究しているのか」 パネリスト:富井大裕、藤原彩人、 生井亮司、小松佳代子	小山市立博物館 視聴覚室	47名
前期 11月20日(日) 後期 12月18日(日) 各日14:00-15:30	ギャラリートーク(第55回企画展記念事業) 参加アーティストによるギャラリートーク (前期)講師:小松佳代子、生井亮司、 長島さと子、さかいともみ、岩本彩花、 飯塚純、三好風太、竹本悠太郎 (後期)講師:小松佳代子、生井亮司、 藤原彩人、櫻井あすみ、菊地匠、 南雲まき、山本玲央	展示室・肥料蔵	26名 33名
12月3日(土) 14:00-15:00	作品鑑賞会(第55回企画展記念事業) 中学・高校生対象の作品鑑賞会 ファシリテーター:生井亮司	展示室	4名

3. 教育機関等との連携事業(依頼事業)

参加人数449名

学校教育や社会教育との連携を図るため、展覧会・小川家住宅の案内・解説をはじめ、ワークショップなどを実施しています。

①-1 教育機関との連携(来館)

参加人数197名

日時	内容	利用者	参加人数
6月22日(水)・23日(木) 各日9:00-16:00	職場体験学習 2日間 (小川家住宅見学 他)	間々田中学校 2年生	2名
7月14日(木) 9:00-11:15	校外学習 社会科「市のようす」 (小川家住宅、企画展「鈴木まもる」 展見学)	乙女小学校 3年生	83名
7月27日(水) 10:00-10:40	企画展「鈴木まもる展」、小川家住宅 見学	大谷中学校 社会科部会	6名
8月3日(水) 9:25-10:00	企画展「鈴木まもる展」・小川家住宅 見学	乙女中学校 支援学級	5名
8月10日(水) 9:00-10:30	企画展「鈴木まもる展」、小川家住宅 見学	小山中学校 美術部	21名
8月24日(水) 9:00-10:30	企画展「鈴木まもる展」、小川家住宅 見学	小山市立博物館 実習生	4名
11月2日(水) 9:25-10:50	生活科「乙女のたんけんたい」 (小川家住宅見学)	乙女小学校 2年生	76名

①-2 教育機関との連携(出張講座)

参加者131名

日時	内容	主催	参加人数
6月28日(火) 10:00-12:00	はじめての切り絵 対象:高齢者 講師:当館館長 中野 晴永	穂積公民館	13名
7月5日(火) 午前① 9:30-11:30 午後② 13:00-15:00	はじめての切り絵 対象:高齢者 講師:当館館長 中野 晴永	豊田公民館	31名 (①18名・ ②13名)
11月17日(木) 9:10-9:45	「齊藤鷗舟の人と作品」 対象:小学6年生 講師:当館学芸員 五十嵐 直子	小山第二小学校	27名
11月18日(金) 10:00-11:30	わたしの動物園や水族館を描こう 対象:小学1~3年 講師:当館館長 中野 晴永	教育委員会総務課 下生井小学校	15名
11月18日(金) 13:00-15:00	はじめての切り絵 対象:小学4~6年 講師:当館館長中野 晴永	教育委員会総務課 下生井小学校	16名
12月6日(火) 9:30-11:30	はじめての切り絵 対象:一般 講師:当館館長中野 晴永	桑公民館	16名
12月7日(水) 13:30-15:30	はじめての切り絵 対象:一般 会場:大谷公民館 講師:当館館長中野 晴永	大谷地区社会福祉 協議会	13名

②各種団体対応

参加者121名

日時	内容	団体名	参加人数
5月28日(土) 13:00-14:00	企画展「野澤一郎が愛した美術展」 見学	巴コーポレーション (社友会)	10名
7月13日(水) 9:30-11:10	企画展「鈴木まもる展」、小川家住宅 見学	ふれあい子育て楽級 (間々田公民館)	4名
8月19日(金) 10:00-11:30	企画展「鈴木まもる展」、小川家住宅 見学	60歳代からの「は つらつクラブ」(間々 田公民館講座)	24名
9月2日(金) 13:40-15:20	企画展「鈴木まもる展」、小川家住宅 見学	子育て支援サークル おおよっこ	14名
9月6日(火) 9:00-10:00	企画展「鈴木まもる展」見学	富士見幼稚園	16名
10月1日(土) 9:50-10:25	小川家住宅見学	小山歴史研究会	8名
令和5年1月日(日) 11:10-11:45	10×15の世界コンテスト展、小川家 住宅見学	JTB ガイアレック 日光街道を歩く (第8回-①)	26名
令和5年1月28日(土) 10:55-11:30	10×15の世界コンテスト展、小川家 住宅見学	JTB ガイアレック 日光街道を歩く (第8回-②)	19名

4. 車屋美術館ボランティア支援事業

小山市立車屋美術館のボランティアは、館の目的に賛同した希望者が、ボランティア活動を通してその業務を支援しながら、芸術文化に関する理解と関心を深め、普及に資するとともに、ボランティア自身の教養も深めていただくことを目的として活動しています。

その活動は、小川家住宅の観覧者に対する案内や解説の他、各種美術館事業の補助や広報活動でも協力いただいています。

また、ボランティア自身の教養を豊かにし、さらに観覧者へと還元できるよう、その活動を支援する目的で研修会も行っています。

【主な活動内容】 ・小川家住宅の観覧者に対する案内
・広報活動
・その他必要な補助活動

【登録人数】 22名

【活動実績】

令和4年度ボランティア登録者は22名。年間延べ277名の活動実績がありました。

月毎のボランティア活動人数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
延べ人数	17	38	31	36	23	22	19	25	28	18	8	18	277名

【関連事業】

ボランティア研修会

日時	内容	会場	参加者
5月22日(日) 14:00-15:00	ボランティア研修会講演会 『伝統文化に学ぶ先人のこころと知恵』 講師:当館館長	小川家住宅庭園	11名

V 展示室貸出事業(市民ギャラリー)

当館では、企画展示開催期間を除いた一定の期間を展示室貸出期間として設定し、市民の芸術活動の発表の場として活用していただき地域文化の活性化を図ると共に、市民の文化的な活動と交流を支援する目的で貸し出しを行っています。(小山市立車屋美術館設置条例第6条～第15条及び同管理運営規則第5条～第12条)

令和4年度の貸出期間は令和5年2月2日(木)～3月19日(日)の開館日数39日間で、3団体の利用がありました。

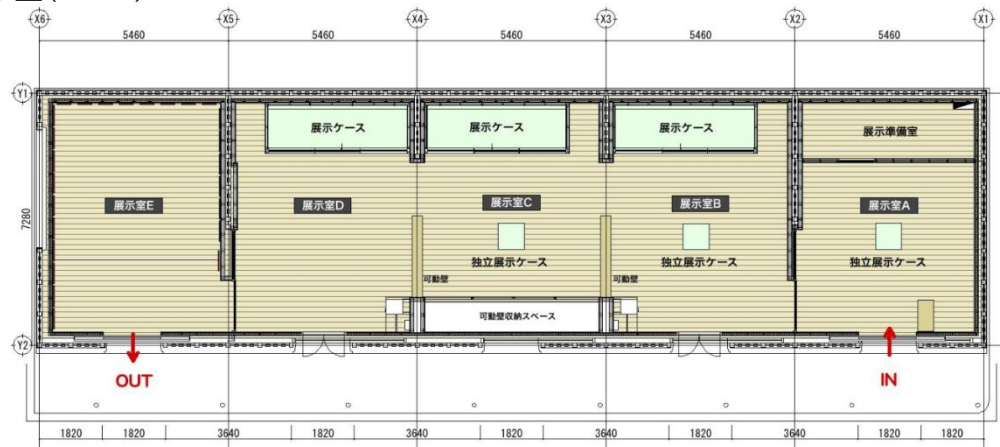
入場者数 1131名

貸出期間・会期	展示名・内容等	主催者	入場者
3月2日(木)-5日(日)・4日間	「石川均 黒と白の木版画展」 ・木版画の作品展示	石川均	382名
3月9日(木)-12日(日)・4日間	「第20回 陶23展」 ・陶23会員(15名)による陶芸作品の展示	陶23	219名
3月14日(火)-17日(金)・4日間	「小山市美術家協会 設立絵画展」 ・会員20名による絵画の展示	小山市美術家協会	530名

○参考

・貸出する展示室(A～E)

展示室平面図



【使用料】

小山市民及び栃木市、下都賀郡野木町、茨城県古河市、群馬県邑楽郡板倉町、埼玉県加須市及び友好都市(茨城県結城市)に住所がある方は下表とおり

貸出部分	貸出時間	料金
展示室 A～E の 一部屋	半 日(9:00-13:00または13:00-17:00)	250円
	1 日(9:00-17:00)	500円

※上記以外にお住まいの方の利用料金は表の金額の倍額となります。

【展示可能なもの】

絵画、写真、書道、陶芸、手芸品などであることに加え、安全衛生上問題のないもの。
販売等は禁止。

【使用期間と時間】

本館企画展を開催していない期間で、年度当初に定められた期間(年間スケジュール参照)。
使用時間は9:00から17:00まで。

【施設の連続使用】

一団体4日間以内。

【その他】

使用の申込みは、使用者または責任者が美術館事務所へお越しになり、「展示室使用許可申請書」にご記入のうえ受付窓口へお申込みください。電話・FAX・郵送での申込み不可。
申請書を審査し使用許可の適否を決定し、使用者へ通知します。詳細については事前にお問い合わせください。



小山市立車屋美術館館報

—令和4年度(2022年4月～2023年3月)—

発行 令和5年8月31日

編集・発行 小山市立車屋美術館

〒329-0214 栃木県小山市乙女3-10-34

TEL 0285-41-0968/FAX 0285-41-0922



Kurumaya
Museum
of Art